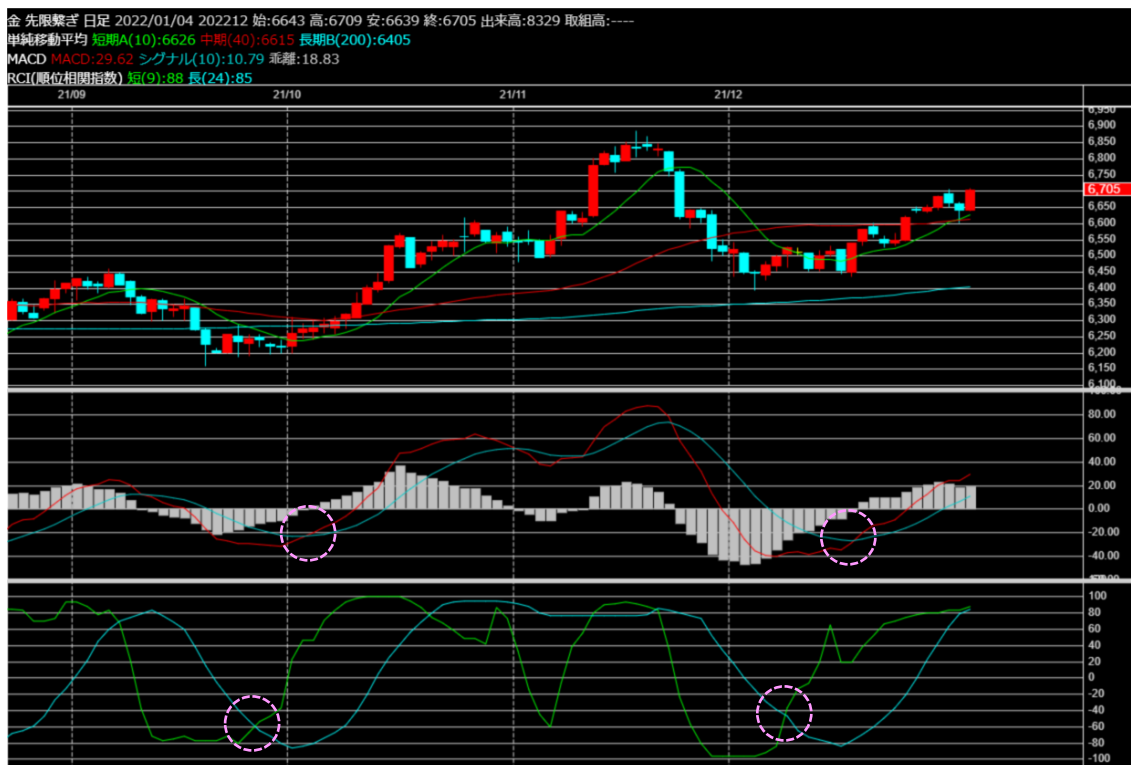


<金標準先物、2022年タカ派に移行するFOMCメンバー・・・>



(出所：オアシス)

2022年寅年、相場の世界における格言では「千里を走る」と表現される。しかし過去の寅年は政治や紛争の事件が多くみられた年でもある。特に昨年末からウクライナ情勢や台湾問題を抱え、国際紛争の地政学的なリスクが高まる状況にも思えます。ただ2月2日から20日まで北京冬季オリンピックを控えており、開会式にはプーチン大統領も参加する事を考慮しても、地政学的なリスクの高まりは3月以降と考えるのが妥当に思えます。

また2022年はFOMCメンバーがタカ派に移行する年でもある。2021年のシカゴ連銀総裁、アトランタ連銀総裁、リッチモンド連銀総裁、サンフランシスコ連銀総裁が交代し、新たにタカ派の3名であるカンザスシティ連銀総裁、クリーブランド連銀総裁、セントルイス連銀総裁がメンバーとなるため、FOMCでは利上げ観測が加速する可能性が高くなるため、10年物国債金利が1.6%を超える金利上昇にはNY金の価格上昇が抑えられる特徴があるため、年末の上昇を手放しで喜ぶことは出来ないと予想される。そのため今週の6700円以上を試す値動きには注意しながら対応するのが良いかと思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足をMACDとRCIで見ると、MACDではMACDとシグナルが上昇を示している。またRCIでも短期と長期が上昇を維持するなど、弱気のクロスサインは示されていない。ただRCIで短期と長期の乖離幅が縮小しており、今週中に弱気のクロスが発生する確率が高く、戻り売りの値動きが予想される。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 328,000 円(2022 年 1 月 4 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 33,000 円(2022 年 1 月 4 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>